

資 料 (用 語 解 説)

あ行

- RPA(あーるぴーえー)
定型的な業務(帳簿入力、伝票作成、データ管理など)でこれまで人間のみが対応できるとされていた作業などを自動化することをいう(Robotic Process Automation)。
- IoT(あいおーていー)
コンピュータなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在する様々な物体(モノ)に通信機能を持たせ、インターネットへの接続や物体間の通信により、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うことをいう(Internet of Things)。
- ICT(あいしーていー)
情報通信技術のことで、コンピュータやネットワークに関連する諸分野における技術・産業・設備・サービスなどの総称をいう(Information and Communication Technology)。
- アセットマネジメント
中長期的な視点で、効率的かつ効果的に施設等を管理運営する体系化された実践活動をいう。具体的には、「施設等(モノ)のマネジメント(ストックマネジメント)」に「資金(カネ)のマネジメント」と「人材(ヒト)のマネジメント」を加えた事業資産全体を管理運営すること。
- 圧送管(あっそうかん)
下水道管路のうち、ポンプで圧力をかけて下水を送る方式のものをいう。地形的条件などの理由で、自然流下ができない場合等に用いる。
- 医療拠点(いりょうきょてん)
災害時の救急医療の拠点となる重要医療施設をいう。
- インバータ制御(いんばーたせいぎょ)
電源の電圧や周波数を制御することで、モーターの回転数を連続的に変化させる制御方法をいう。きめ細かな制御により省電力化が図られる。
- WEB受付システム(うぇぶうけつけしすてむ)
災害時にお客さまからインターネット経由で寄せられる漏水等の情報とコールセンターで収集したデータを集約し、必要なデータをGPMap等で利用できる形式で出力するシステムのことをいう。
- ウォーターPPP(うおーたーぴーぴーぴー)
コンセッションに段階的に移行するための官民連携方式(管理・更新一体マネジメント方式)と公共施設等運営事業(コンセッション)を併せて「ウォーターPPP」という。民間企業の効率的な運営手法や最新技術の導入により、運営コストの削減やサービス向上が見込まれている。
- 雨水浸透枳(うすいしんとうます)
雨水を地下に浸透させる設備をいう。各家庭などから外へ流れ出る量を抑え、浸水被害の軽減と地下水のかん養が図ることができる。
- AI(えーあい)
人工知能のことをいう(Artificial Intelligence)。推論・判断などの知的な機能を人工的に実現

するための機能を備えたコンピュータシステム等を指す。

- AI-OCR(えーあいおーしーあーる)
AI技術を取り入れたOCR(Optical Character Recognition/光学的文字認識)をいう。AIを導入することで、読み取り精度が向上する。
- SS(えすえす)
水の中に溶けずに漂っている粒子状の物質で、「浮遊物質」や「懸濁物質」ともいう(Suspended Solids)。水の汚れを表す指標の一つで、数値が小さいほど濁りが少なくきれいな水ということになる。
- SNS(えすえぬえす)
インターネット上で、友人・知人間のコミュニケーションを円滑にするほか、趣味や嗜好、居住地域などのつながりを通じて新たな人間関係を構築する場を提供する会員制のサービスのことをいう(Social Networking Service(Site))。
- SDGs(えすでいーじーず)
「持続可能な開発目標」のことをいう(Sustainable Development Goals)。2015 年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から2030 年までの国際目標であり、持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人取り残さない(leave no one behind)ことを誓っている。
- 遠隔監視装置(えんかくかんしそうち)
対象となる機場などの稼働状況や異常発生などの情報を離れた場所から監視できる装置をいう。
- 「おいしい水」の要件(おいしいみずのようけん)
旧厚生省が設立した「おいしい水研究会」によって昭和 60 年に発表されたおいしい水の水質要件をいう。蒸発残留物、硬度、遊離炭酸、過マンガン酸カリウム消費量、臭気強度、残留塩素、水温について数値要件がある。
- 応急給水(おうきゅうきゅうすい)
地震、渇水及び配水施設の事故などにより、水道による給水ができなくなった場合に、被害状況に応じて拠点給水、運搬給水及び仮設給水などにより、飲料水を給水することをいう。
- 大口需要者(おおぐちじゅようしゃ)
この実施計画では、1月当たりの使用水量が 500 m³以上の使用者をいう。
- 汚水(おすい)
一般家庭や工場・事業所等から生活や生産活動等によって排出される汚濁した水のことをいう。
- 温室効果ガス(おんしつこうかがす)
二酸化炭素、一酸化二窒素、メタン、フロン類など、地球温暖化の原因とされるガスをいう。
- 音聴調査(おんちょうちょうさ)
漏水調査方法の一つであり、道路下に埋設されている水道管から発生する音を音聴棒などを用いて漏水箇所を特定する手法をいう。漏水調査方法には、他にレーダー波(指向性電磁波)を利用した方法などがある。

か行

- 外郭団体(がいかくだんたい)
市の出資比率が 25%以上で市議会に経営状況を報告する義務がある法人及びその他、市が設立
当時から関与し、密接な関係を有する法人をいう。設置目的に即し、専門性を発揮しつつ、行政機能

を補完・代替する役割を担う。

- 活性汚泥(かっせいおでい)
水をきれいにする微生物を多く含む汚泥をいう。下水に含まれる汚濁物質を吸着し、分解する働きをもつことから、浄化センターでの処理過程において重要な役割を果たしている。
- 合併処理浄化槽(がっぺいしよりじょうかそう)
トイレ汚水と雑排水(生活に伴い発生する汚水)を処理する浄化槽をいう。これに対しトイレ汚水のみを処理する浄化槽を単独浄化槽という。浄化槽法の一部改正により、平成 13 年度以降は単独浄化槽を新たに設置することができなくなった。
- 可とう管化(かとうかんか)
曲げたり、伸ばしたりすることが可能である性質を持つ管や継手にすることをいう。
- 間欠運転(かんけつうんてん)
機械や設備において、一定の間隔で運転と停止を繰り返す運用方法をいう。
- 管路勾配(かんろこうばい)
下水道管路につける勾配(傾斜)をいう。下水道は基本的には自然流下方式となっており、下水道法施行令でやむを得ない場合を除き、100 分の1以上と規定されている。
- 管路情報システム(かんろじょうほうしすてむ)
上下水道の管路を地図上に表示して、管路に関する様々な情報を閲覧するための地理情報システムをいう。ファイリング機能を備えており、図面等の資料を検索、表示することができる。
- 基幹管路(きかんかんろ)
導水管・送水管・配水管(本市では概ね口径 350mm 以上)の総称をいう。
- 基幹的業務(きかんできぎょうむ)
事業運営の中心・中核となる業務をいう。
- 企業債(きぎょうさい)
地方公営企業の施設等の建設、改良等に要する資金に充てるための借入金をいう。
- 給水栓(きゅうすいせん)
給水管及びこれに直結した給水用具の末端部分に付けられている蛇口、水栓などの器具をいう。
- 給水装置(きゅうすいそうち)
配水管から分岐して設けられた給水管及びこれに直結する給水用具のことで、受水槽方式を除き、一般的には配水管から取り出した給水管から蛇口までの部分をいう。
- 共助(きょうじょ)
市民・住民同士が支え合い、助け合うことをいう。
- 業務継続計画(ぎょうむけいぞくけいかく)
災害等による資源、人、物、資金、情報等の制限をあらかじめ想定し、災害発生時における機能の回復と災害対応を速やかに実施することを目的とした計画をいう。
- 緊急遮断弁(きんきゅうしゃだんべん)
地震時に応急給水などに使用する貯水量を確保するために配水池等に設置されている弁をいう。地

震による揺れを感知して自動で管路を遮断する。

- 緊急輸送路(きんきゅうゆそうろ)
地域防災計画で指定されている地震発生時に通行を確保すべき道路(国道、県道、市道)をいう。
- 熊本市上下水道事業運営審議会(くまもとしじょうげすいどうじぎょううんえいしんぎかい)
上下水道事業の経営のあり方、事業の方向性等を総合的に審議するために設けられた上下水道事業管理者の附属機関で、学識経験者、関係団体代表者、公募市民により構成されるものをいう。
- 熊本市水道の森(くまもとすいどうのもり)
水道創設 90 周年(平成 26 年)を記念して、九州森林管理局と「法人の森林(もり)」契約を締結し、阿蘇山西麓(阿蘇郡西原村)の国有林内に設けた水源かん養林をいう。
- 熊本地域地下水総合保全管理計画(くまもとちいきちかすいそうごうほぜんかんりけいかく)
地下水の水量と水質の課題を解決するため、熊本県と熊本地域 11 市町村が地下水保全対策を総合的、計画的に推進するために共同で策定した計画をいう。
(熊本地域:熊本市、菊池市、宇土市、合志市、大津町、菊陽町、西原村、御船町、嘉島町、益城町、甲佐町)
- くまもと地下水財団(くまもとちかすいざいだん)
熊本地域の生活基盤である地下水を広域的かつ横断的に保全するため、既存の地下水保全組織を統合し平成 24 年度に設立された財団をいう。地下水の流動メカニズムを把握する調査研究を始め、地下水質保全、地下水かん養、啓発等の4つの公益目的事業を実施している。
- 経営比較分析表(けいえいひかくぶんせきひょう)
国(総務省)が公営企業の見える化を推進するために、毎年度作成を促している分析表をいう。経年比較や他の公営企業との比較や経営の現状及び課題の抽出が可能となる。
- 下水汚泥(げすいおでい)
下水処理の各工程から発生する泥状の物質をいう。
- 下水道計画区域(げすいどうけいかくくいき)
下水道を整備する対象区域をいう。污水管路の整備により排除された下水を処理場で処理する処理区域と雨水管路の整備により浸水の防除を図る区域がある。
- 下水道浸水対策計画 2023(げすいどうしんすいたいさくけいかくにせんにじゅうさん)
激甚化・頻発化する都市型水害に対応するため、気候変動の影響を見据えたハード整備やソフト対策について取り纏めた総合的な浸水対策計画をいう。本市では、浸水リスクや都市機能集積度を基に選定した重点 9 地区について浸水対策を進めている。
- 減圧弁(げんあつべん)
高水圧は漏水の原因となることから、管路の途中に設置されている水圧を下げるための弁をいう。
- 減価償却費(げんかしょうきやくひ)
固定資産の経年的価値の減少額を、毎事業年度の費用として配分するものであり、現金支出を伴わない費用をいう。
- コア業務(こあぎょうむ)
事業運営の中心・中核となる業務をいう。

- 公営企業(こうえいきぎょう)
地方公共団体が設置し、経営する企業をいう。一般行政事務に要する経費が租税によって賄われるのに対し、公営企業の運営に要する経費は料金収入によって賄われる。
- 公共下水道(こうきょうげすいどう)
主として市街地における生活排水や工場排水を排除し、下水処理場で処理してきれいになった水を河川や海に放流するもので、市町村が設置し管理するものをいう。
- 公共用水域(こうきょうようすいいき)
水質汚濁防止法では、「河川、湖沼、港湾、沿岸海域、その他公共の用に供される水域、及びこれに接続する公共溝きよ、かんがい用水路、その他の公共の用に供される水路」と定義されているものをいう。
- 工業用水道(こうぎょうようすいどう)
工業の用に供する水(水力発電の用に供するもの及び人の飲用に適する水として供給するものを除く)をいう。
- 更生工事(こうせいこうじ)
能力や機能を回復させるために行う工事をいう。取水井戸の更生工事の場合、内部の錆取りや洗浄を行う。
- 高度処理(こうどしより)
生活排水から窒素やリンといった富栄養化の原因物質等を多量かつ確実に除去できる高度な処理方法をいう。
- 国庫補助金(こくこほじょきん)
国庫支出金の一つで、特定の施策の奨励または財政援助のための給付金をいう。
- コンポスト化(こんぼすとか)
下水汚泥(脱水汚泥)を、堆肥として利用できるように処理することをいう。

さ行

- 災害時広報計画(さいがいがいこうほうけいかく)
災害時、施設等の被害状況等の必要な情報を速やかに提供することにより、市民の不安を軽減し、無用な混乱を未然に防止し、応急対策の方針・進捗状況等を周知し、円滑な応急対策の実施を図ることを目的として、広報活動が速やかに実施できるよう定めた計画をいう。
- 催告(さいこく)
督促後、納付していない者に対する請求行為をいう。
- 再生可能エネルギー(さいせいかのうえねるぎー)
一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しないエネルギーのことをいう。水力・地熱・太陽光・太陽熱・風力・雪氷熱・温度差・バイオマスなどがある。
- 財政マネジメント(ざいせいまねじめんと)
事業運営を財政的視点から管理していくことをいう。
- サウンディング調査(さうんでいんぐちょうさ)

地方公共団体が事業発案段階や事業化検討段階において、民間事業者との対話を通じ、市場性の有無や実現可能性の把握等の情報収集を目的として実施する調査手法をいう。

- CSV形式(しーえすぶいけいしき)
各項目をカンマで区切った形式をいう(Comma Separated Values)。テキストデータのみであるため、異なるシステム間でデータのやり取りなどをするとき用いられる。
- COD(しーおーでいー)
化学的酸素要求量のことをいう(Chemical Oxygen Demand)。水の汚れ具合を表す指標で、数値が高いほど水が汚れていることを示す。主に海や湖沼の測定に用いられる。
- 時間計画保全(じかんけいかくほぜん)
予防保全の一種で、主に劣化状況の把握が困難な施設に適用し、施設の特性に応じて予め定めた周期により対策を行う管理方法をいう。
- 事業スキーム(じぎょうすきーむ)
事業を実施するうえでの組織形態や技術的側面、制度的側面及び財政的側面を含む枠組み、仕組みをいう。
- 資金計画(しきんけいかく)
資金の支出と収入時期を的確に把握し、事業運営に必要な資金をどのように調達し、余裕資金をどのように運用するかを計画したものをいう。
- 資金運用(しきんうんよう)
余裕資金を金融機関等に預け、利息収入等を得ることをいう。
- 自己資金(じこしきん)
返済の必要がない資金をいう。
- 事後保全(じごほぜん)
異常や故障が発生してから処置を行う管理方法をいう。
- 自然流下(しぜんりゅうか)
水が高い所から低い所へ流れることを利用して、丘陵地帯などの高台にある配水池、配水塔から水を自然に流下させて配水する方式をいう。地震や風水害等で停電になっても断水することなく水を配ることが出来る点で優れている。
下水では、管路勾配を利用して下水を輸送する方式であり、管路は下り勾配で布設する必要がある。
- 指定管理者制度(していかりしゃせいど)
地方自治法に基づき、議会の議決を経て地方公共団体が指定する者(指定管理者)が公の施設の管理を代行する制度をいう。
- 自動除塵機(じどうじょじんき)
浄化センターや一部のポンプ場に設置し、下水中の固形物や繊維質のゴミ(し渣)をスクリーンで捕捉した後、自動的に掻き取る機器をいう。
- JICA(じゃいか)
日本の政府開発援助(ODA)のうち、二国間援助の形態である技術協力、有償資金協力、無償資金

協力を担う機関として、開発途上国への国際協力を行う独立行政法人国際協力機構のことをいう（Japan International Cooperation Agency）。

- 収益的収支（しゅうえきてきしゅうし）
一事業年度の企業の経営活動に伴って発生する全ての収益と費用を表す。
- 受援体制（じゅえんたいせい）
被災地の支援にきた他の事業体等を受け入れるためのハード面及びソフト面を含めた体制をいう。
- 循環型社会（じゅんかんがたしゃかい）
自然界から採取する資源をできるだけ少なくし、それを有効に使い、廃棄されるものを最小限に抑えることによって、環境への負荷を減らす社会をいう。
- 準コア業務（じゅんこあぎょうむ）
コア業務に準ずる業務をいう。
- 消化ガス（しょうかがす）
消化タンクで下水汚泥中の有機物が微生物の働きにより分解され発生するガスをいう。燃料としての利用のほか、消化ガスを用いたガス発電も実施されている。
- 浄化センター（じょうかせんたー）
終末処理場のことをいう。汚れた水をきれいな水にして川や海に流す施設をいう。
- 小規模貯水槽水道（しょうきぼちようすいそうすいどう）
水道水を一旦貯水槽にためポンプで各階へ給水する方式の水道設備で、貯水槽の容量が 10 m³以下のものをいう。
- 上下水道局お客さまセンター（じょうげすいどうきょくおきゃくさませんたー）
水道料金・下水道使用料のお支払い、水道・下水道の使用開始や廃止、名義の変更などの受付業務を行うセンターをいう。
- 上下水道についてのアンケート（じょうげすいどうについてのあんけーと）
市内のお客さま 3,000 世帯を対象としたアンケートをいう。設問に答えながら上下水道事業への理解を深めていただくことを目指している。
- 詳細設計（しょうさいせつけい）
実際に工事を発注するための設計をいう。図面、仕様書及び積算書等で構成される。
- 硝酸態窒素（しょうさんたいちっそ）
硝酸性窒素ともいう。窒素が酸素と結合して硝酸イオンの形になったものを硝酸態窒素という。水に溶けやすい性質で、地下水中の硝酸態窒素の主な原因は施肥、家畜排せつ物、生活排水である。
- 小水力発電（しょうすいりよくはつでん）
ダムのような大規模な施設を使用せず、小河川・用水路・水道施設などを利用して行う水力発電のことをいう。発電量は小さいが、自然環境への負荷が少ないなどの利点がある。
- 状態監視保全（じょうたいかんしほぜん）
予防保全の一種で、施設の劣化状況や動作状況の確認を行い、ライフサイクルコストの最小化の観

点から、最適な改築時期を把握し、適切な対策を行う管理方法をいう。

- 職員研修計画(しょくいんけんしゅうけいかく)
研修に関する目標とそれに向けた課題を明らかにしたうえ、課題解決に向け効率的・計画的な研修内容の充実を図るために定める計画をいう。
- ジョブローテーション
人材の育成のため、様々な経験を通じ、知識の充実や能力向上・スキルアップを図ることを目的に職員を定期的、計画的に異動させることをいう。
- 処理区域内人口(しよりくいきないじんこう)
公共下水道により下水を排除することができる区域内の人口をいう。
- 浸水実績図(しんすいじっせきず)
過去に発生した浸水被害を地図上に表したものをいう。本市においては、市として把握している浸水箇所を対象としている。
- 水源(すいげん)
取水する地点のことをいう。
- 水洗化率(すいせんかりつ)
公共下水道の整備が完了し利用可能な区域において、下水道へ接続している人の割合を表すものをいう。
- 水道GLP(すいどうじーえるぴー)
水質検査機関が備えるべき組織、検査機器及び検査標準作業手順書等について定めた「水道水質検査優良試験所規範」の略称で、水質検査結果の精度と信頼性の保証を確保するための認定基準をいう(Good Laboratory Practice)。
- 水理模型実験(すいりもけいじっけん)
複雑な水の流れを解析するために、模型で実際の水の流れと同様の状況を再現し、観察及び測定する実験をいう。
- スキルアップ
業務上必要とする知識や技術力などを習得することをいう。
- スクリーニング調査(すくりにんぐちょうさ)
管路の劣化状況や異常箇所を確認し、さらに詳しい調査を実施すべき箇所(スパン等)を絞り込むための手法をいう。下水道管路の調査方法には、布設年度や破損履歴などのリスク評価に基づく机上スクリーニング調査やマンホール目視調査等を用いた簡易調査等がある。
- スtockマネジメント
アセットマネジメントに内包される考え方で、持続可能な事業の実現を目的に、膨大な施設等の状況を客観的に把握、評価し、長期的な施設等の状態を予測しながら、施設等を計画的かつ効率的に管理することをいう。
- セメント化(せめんとか)
下水汚泥(脱水汚泥)を、セメント製造の原料とすることをいう。
- 繊維利活用システム(せんいりかつようしすてむ)

下水汚泥中に含まれる繊維物を回収し、回収した繊維物を助材として下水汚泥と混合させるシステムをいう。汚泥脱水機での脱水性が改善し、脱水汚泥の低含水率化による低容積化や、薬注率低減化等のコスト縮減効果がある。

- 創エネルギー(そうえねるぎー)
エネルギー消費を抑制するため、消費量を節約するだけでなく、エネルギーを創り出そうとする考え方をいう。具体的には、太陽光発電、小水力発電、風力発電、太陽熱、バイオガス等の再生可能エネルギーの活用のほか、排ガス及び排熱利用(コージェネレーションシステム)、下水汚泥固形燃料化、下水熱などがある。
- 送水管(そうすいかん)
浄水施設で消毒された上水を、配水池まで送る管をいう。
- 装置産業(そうちさんぎょう)
事業を行ううえで大規模な施設・設備を必要とする産業をいう。水道事業を例にとると、水源地、配水池、管路、庁舎等が必要となる。

た行

- 耐震化(たいしんか)
強い地震でも建物や管路等が倒壊、損壊しないように更新又は補強することをいう。
- ダクタイル鑄鉄管(だくたいるちゅうてつかん)
「ダクタイル」とは「柔軟な」という意味で、鑄鉄管に含まれる炭素を球状にすることで、強靱性を高め衝撃に強くした管をいう。耐震性が高い。
- 単独処理浄化槽(たんどくしよりじょうかそう)
トイレ汚水のみを処理する浄化槽をいう。雑排水(生活に伴い発生する汚水)は処理されない。
- 地下水かん養(ちかすいかんよう)
雨水が森林や農地等で土中に浸透し、帯水層に地下水として貯えられることをいう。
- 窒素(ちっそ)
元素の一種で、大気中の約 80%を占めており、下水中では、アンモニウムイオン、硝酸イオン、有機性窒素等として存在し、リンと並んで水域の富栄養化の原因物質とされているものをいう。
- 長期前受金・長期前受金戻入(ちようきまえうけきん・ちようきまえうけきんれいにゆう)
築造された施設等の財源となった補助金等を分割して収益化することをいう。築造された施設等(資産)は耐用年数に応じ、事業運営に資することになるが、国等から受けた補助金等もその築造された施設等(資産)の耐用年数に応じ、事業運営に資することになると考えられる。補助金等は築造時に全額現金として交付されるが、費用収益対応の原則から耐用年数(貢献する期間)に応じ、分割して現金収入を伴わない収益として計上される。会計上は、貸借対照表の負債の部に長期前受金(繰延収益)として計上し、耐用年数に応じ分割して現金収入を伴わない収益(長期前受金戻入)として損益計算書に計上する。
- 長寿命化(ちようじゅみようか)
施設等が標準的な耐用年数を超えても従来の機能が維持できるように、予防保全的な維持管理と部分的な更新により延命化を実施することをいう。

- 調整池(ちょうせいち)
上水道事業では、水源池から送られる水の量と使用される水の量を調整するための池のことをいう。
下水道事業では、大量の雨水が短時間に集中して水路へ流入したときに、雨水があふれてしまわないように、一時的に雨水を貯留するための施設のことをいう。
- 貯水機能付給水管(ちよすいきのうつききゅうすいかん)
給水管の途中に球形タンクのような貯水機能のついた給水管をいう。地震等の災害時に水道本管が断水したときは、タンク容量分の水道水を確保し、非常用の飲料水を提供することができる機能を持つ。
- テレビカメラ調査(てれびかめらちょうさ)
管路施設の破損、老朽度、浸入水等の管路状況を把握するため、調査用のテレビカメラを使用して管路内の状況を調査することをいう。
- 電子申請(でんししんせい)
インターネットを利用して申請や届出等を行うことをいう。
- 導水管(どうすいかん)
取水し消毒されていない地下水(原水)を浄水施設まで送る管をいう。
- 督促(とくそく)
地方自治法第 231 条の3第1項及び地方自治法施行令第 171 条に基づき、納期限までに納付していない者に対する請求行為をいう。時効中断の効力がある。
- トレードオフ
品質を良くすると費用が高くなる、あるいは期間が延びるというように、一方を追求すれば他方が達成できない状態や関係をいう。

な行

- 内水浸水想定区域図(ないすいしんすいそうていくいきず)
九州北西部地区の想定最大規模降雨(時間雨量 153mm)があった際に浸水する区域や深さをシミュレーションで確認し図化したものをいう。
- 内水氾濫(ないすいはんらん)
市街地等に降った雨水の量が河川へ排水する下水道や排水路の能力を超えることで引き起こされる氾濫をいう。
- 鉛製給水管(なまりせいきゅうすいかん)
鉛製の給水管をいう。本市では平成元年以降は使用されていない。
- 南海トラフ地震(なんかいとらふじしん)
日本列島の太平洋沖、「南海トラフ」沿いの広い震源域で連動して起こると警戒されているマグニチュード9級の巨大地震のことをいう。
- 日米台水道地震対策ワークショップ(にちべいたいすいどうじしんたいさくわーくしょっぷ)
日本水道協会(JWWA)、米国水研究財団(WRF)及び台湾水道協会(CTWWA)が共同し開催し

ている地震対策ワークショップをいう。このワークショップは、水道事業体及び防災関係者が水道の地震対策に関する調査研究並びに情報交換を行うことで地震に強い水道に寄与することを目的とし、1998 年からほぼ2年おきに開催されている。

■ 農業集落排水(のうぎょうしゅうらくはいすい)

農林水産省所管の農業振興地域内(及び一体的に整備可能な周辺地域)の農業集落における汚水処理をいう。農業振興地域における農業用排水の水質保全、機能維持を図ることを目的に、原則として処理対象人口おおよそ 1,000 人程度に相当する規模以下を単位として計画、施工するもの。

は行

■ バイオマス

再生可能な生物由来の有機性資源で化石資源を除いたものをいう。このバイオマスから得られるエネルギーのことをバイオマスエネルギーという。

■ 配水管(はいすいかん)

配水池などから、浄水を各給水地点まで供給する管路の総称をいう。配水管のうち、主に給水管の分岐のないものは「配水本管」、給水管の分岐があるものは「配水支管」と定義されており、熊本市においては概ね 350mm 以上の水道管を「配水本管」、300mm 以下を「配水支管」として取り扱っている。

■ 排水設備(はいすいせつび)

家庭内の便所・浴室・台所などから流れ出る汚水を上下水道局が設置した下水道施設(公共ます)に接続し、スムーズに排除するための施設をいう。

■ 配水池(はいすいち)

浄水施設から送られる上水を常時安定給水できるように貯留しておく施設。災害時には一定の上水を確保し応急給水拠点になる。

■ 配水量(はいすいりょう)

配水池、配水ポンプなどから配水管に送り出された水量をいう。

■ パブリックコメント

本市の行政計画等の政策立案過程において、素案の段階から公表し、市民の皆さまの多様な意見を求め、できる限り政策に反映させていく制度をいう。

■ BOD(ビーオーでいー)

生物化学的酸素要求量のことをいう(Biochemical Oxygen Demand)。CODと同様に、水の汚れ具合を表す指標で、数値が高いほど水が汚れていることを示す。主に河川の測定に用いられる。

■ PDCAサイクル(ぴーでいーしーえーさいくる)

「Plan(計画)→Do(実施)→Check(評価)→Action(改善)」の4つの段階を順次行っていく、最後の Action(改善)を Plan(計画)につなげ継続的に業務を改善していく仕組みをいう。

■ PPA(ピーピーえー)

自治体や企業が所有する施設の屋根等を PPA 事業者に貸し出し、そこに PPA 事業者が太陽光発電設備を設置して再生可能エネルギー電気を調達する仕組み。(Power Purchase Agreement)

- 避難所運営委員会(ひなんじょうんえいいんかい)
「地域住民(校区自治協議会)」、「避難所担当職員」、「施設管理者」からなる避難所の円滑な開設・運営を目的とした組織をいう。
- 腐食環境下(ふしょくかんきょうか)
コンクリートや腐食しやすい材料で造られている管路施設のうち、下水の流路の勾配が著しく変化する箇所または下水の流路の高低差が著しい箇所、その他多量の硫化水素の発生により腐食のおそれ大きい箇所をいう。
- 伏越し(ふせごし)
下水道管路の途中に川や地下埋設物などの支障物がある場合、サイフンの原理を応用し、ポンプを使わず、下水をいったん支障物の下部に送り、また高い場所へ上げる方法をいう。
- 不明水(ふめいすい)
下水道管路や汚水蓋の破損などの理由で下水道施設に流れ込んできた雨水や地下水等のことをいう(合流管の雨水を除く)。
- 分水施設(ぶんすいしせつ)
河川の氾濫防止及び灌漑用水などのために別の水路を開いて水を分ける施設をいう。
- ベンドサイフォン
伏越しの工法の一つで、ベンド管(汚水の流れを変えるための管)を採用し、上流と下流の水位の差(サイフンの原理)を利用して下水を下流へ送水する方法をいう。
- 法人の森制度(ほうじんのもりせいど)
林野庁が実施している森林を造成・育成し、伐採後の収益を一定の割合で分け合う制度(分収林制度)をいう。
- ポンプ場(ぼんぷじょう)
下水道管路は、自然流下で排水するため下流にいくに従い深くなることから、下水を浅い管路に揚水したり、雨水を公共用水域へ揚水したりするために必要な施設をいう。

ま行

- マテリアル利用(まてりあるりよう)
製品の素材となる原材料として利用することをいう。下水道では、下水汚泥を建設資材や緑農地に利用することを指す。
- マンホールトイレ
下水道管路にあるマンホールの上に、簡易な便座やパネルを設置し、災害時において迅速にトイレ機能を確保するものをいう。
- 水需要(みずじゅよう)
給水が必要とされる水の量をいう。将来必要とされる水の量を予測し、財政収支計画や施設等整備の計画を策定する。
- 水融通管(みずゆうずうかん)
災害発生時等に水の安定供給を図ることを目的に、配水区間で水を相互融通するために整備する管路をいう。

- ミネラル成分(みねらるせいぶん)
生体を構成する主要な4元素(酸素、炭素、水素、窒素)以外のものの総称をいう。代表的なものはカルシウム、リン、カリウム等がある。
- モバイル決済(もばいるけっさい)
スマートフォンやタブレット端末を用いた電子決済のことをいう。

や行

- 有効率(ゆうこうりつ)
配水量のうち、事業運営に有効に使われた水量(有効水量)の割合を表すものをいう。有効水量は検針によって得られる調定水量、洗管などで使用する局の事業用水量、メーター不感水量、消防用水量などからなる。
- 有収汚水量(ゆうしゅうおすいりょう)
下水道事業において、処理した汚水のうち下水道使用料の徴収対象となった水量をいう。
- 有収水量(ゆうしゅうすいりょう)
水道事業において、水道水として配水した水のうち、水道料金の徴収対象となった水量をいう。又は、工業用水道事業において、工業用水道水として配水した水のうち、工業用水道料金の徴収対象となった水量をいう。
- 予防保全(よぼうほぜん)
施設等の寿命を予測し、異常や故障に至る前に対策を実施する管理方法をいう。
- 余裕資金(よゆうしきん)
当面、費用支出や投資など事業運営に必要としない資金をいう。

ら行

- ライフサイクルコスト
ある施設における初期建設コストと、その後の維持管理更新費用等を含めた生涯費用の総計をいう。LCC(Life Cycle Cost)とも表す。
- ライフスタイル
その人の人生観、価値観を反映した生き方をいう。
- 硫化水素ガス(りゅうかすいそがす)
硫黄と水素の無機化合物で、下水道管路においては、下水が滞留するような箇所が発生するものをいう。腐食を引き起こすものの一つ。
- リン
自然界ではリン酸及びその化合物の形で存在し、生物の増殖機能に重要な役割を果たしており、し尿、肥料などに多量に含まれているものをいう。湖沼、閉鎖性の海域などの富栄養化を促進する一因とされ、リンの環境基準が設定された水域では水質汚濁防止法の規制項目となっている。